

意見書

平成 23 年 10 月 13 日

総務省総合通信基盤局
電気通信事業部データ通信課御中

IPv4 アドレス枯渇対応タスクフォース
代表 江崎 浩

「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会第三次中間報告書（案）」
に関し、別紙のとおり意見を提出します。

項	項目	意見
全体		<p>【意見】</p> <p>総論として取りまとめの内容全体に賛同いたします。とりわけ、戦略的広報の推進の必要性について原案に賛同いたします。</p>
P24	(2) IPv6 対応に係る国際競争力の確保と国際貢献	<p>【総務省案】</p> <p>○国際マーケットにおいて主導的な役割を果たすためには、国内において速やかに IPv6 対応及びその利用を進め、実運用の経験を蓄積していくとともに、IPv6 対応が進展したネットワーク環境を活用した IPv6 利活用サービス等の開発・普及を促進することにより、国際競争力を確保することが重要である。</p> <p>○また、競争上の観点のみならず、国際的な IPv6 対応促進に貢献するため、諸外国のニーズに応じて、我が国が蓄積した IPv6 対応や IPv6 利活用サービス提供に係るノウハウを提供していくことも重要である。</p> <p>【意見】</p> <p>IPv4/IPv6 併存環境や IPv6 利用環境においては、世界的に知見の共有が十分になされておらず、コンセンサスが確立されていません。(家庭用ルータのフィルタリングはどこまで行うべきか、家庭内でのアドレス空間はどのくらいが適当かなど) ISP 事業者、大学、学識経験者の間でこれらの問題について問題点や解決策について共有し、蓄積し、世界に対して日本から情報発信する場所が必要です。当タスクフォースではこれに協力する準備があります。</p>